

多世代交流による高齢者の社会参加促進を目指した地域活性化事業

実施主体：日本文理大学 経営経済学部・保健医療学部・工学部建築学科
(実施責任者：副学長 吉村充功)

連携団体：一般社団法人大分県eスポーツ連合、大分県福祉保健部高齢者福祉課、
国東市・旭日ネットワーク協会、豊後大野市・清川町支え合いの
まちづくり仕掛人会、中津市・まほう堂 ほか

1. 背景と課題

高齢者が住み慣れた地域で健やかに安心して暮らせる社会、また多様な地域住民が参加する多世代交流活動の促進等による地域共生社会を目指す中、通いの場や高齢者から「地域や子どもたちとの交流が希薄化している」「活動がマンネリ化している」「参加者の高齢化が進み継続が困難」などの課題が挙げられ、地域のつながりの強化に向けた魅力向上を図ることが求められている。

2. 事業概要・目的

高齢者の「通いの場」の魅力向上に向け、県内3箇所（国東市国東町、豊後大野市清川町、中津市）に新たな活動としてeスポーツ等を取り入れ、日本文理大学、大分県eスポーツ連合、地域が協力して、高齢者を中心に多世代の交流促進の場を創出する実施検証を行った。

3. 実施項目

(1) 多世代交流を生かした通いの場の活動メニューの多様化

県内3箇所の「通いの場」に学生が複数回出向き、高齢者がeスポーツを定期的に楽しめ、参加を促進する体制づくりを行った。



(2) 多世代交流イベントの開催

通いの場へ介入（10月から各地区月1回、計2回程度）した後、eスポーツを主とした多世代交流イベントを開催した。eスポーツの他、学生が立案した新たな活動メニューを取り入れ、多世代交流と高齢者の社会参加の促進を図った。

イベントには地域の子ども等も招き、より幅広い多世代交流を図るとともに、今後も地域の子どもたちが通いの場の活動に入り、あらゆる世代が楽しんで交流できる体制強化を図った。



4. 効果検証

参加した高齢者及び運営に関わった大学生の双方にアンケートを行った。回答者のうち、全員が参加したことに満足と回答し、高齢者の70%、大学生の96%が次回以降も参加したいと回答した（高齢者の30%は未回答）。また、感じたこととして、高齢者は「活気をもらえた」「新しい視点や考え方に触れられた」、大学生は「高齢者とのコミュニケーション力が向上した」「企画・運営（準備、段取り、役割分担）の重要性を学んだ」が上位となり、双方に良い効果が認められた。

地元の代表者からは「今回、大学生の若い人達がきてくれて本当にうれしい。みんな楽しみにしている。eスポーツは、今年度で終わってしまうが、できれば、これからも若い大学生と関わる場が欲しい。」との言葉を頂き、継続に向けた繋がりを持つことも出来た。

